平成 23 年度 第 3 回 石狩市地場企業等活性化審議会

日 時 平成 23 年 9 月 29 日 (木) 15:00～17:00

場 所 市役所本庁舎 5 階 第 2 委員会室

出席者 北山雀会長、後藤正和副会長、松尾拓也委員、岡林位和委員、有田祐司委員、
大江徹委員、瀬尾英幸委員

欠席者 和田郁夫委員、荒関淳一委員

【事務局】 企画経済部 部長 佐々木隆哉
商工労働観光課 課長 武田渉
商工労働観光課 主査 中村一郎、高石康弘
商工労働観光課 主任 田原朋学

傍聴者 0 名

=====

【北山会長】

それでは定刻になりましたので、ただ今から第三回目の審議会を開催します。先般、事務局のほうから皆様方に総括アンケートを実施いたしまして、ご回答いただきありがとうございます。今日はアンケートをもとに色々ご意見を頂戴したいと思います。その後、IVの方針の中の3番目の地場産財の普及と販路拡大、4番目の活力ある地域産業の展開について審議していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

お手元に資料を差し上げておりますが、総括アンケートの集計結果、それと資料として、本日ご出席されておられません和田委員より石狩湾漁業協同組合の資料として、平成23年度事業計画の基本方針などが提出されております。そして、瀬尾委員から2種類のご意見がありましたので、これも含めてご意見をいただきたいと思っております。

それでは、お手元のIV. 地場企業等活性化に向けての方針の総括アンケートの内容について進めてまいります。方針の1番目の地場企業等育成と産業技術の開発促進というところで、(1)の試験研究機関、支援機関との連携において三段階評価でおこなっておりますが、全員の評価ではないですが、一応これについては6名が評価をしており、○が4名、△が1名、×が1名ということで、評価は良いほうであります。積極的に掲載、掲載するべきが、それぞれ3名ずつということでございます。どなたが評価をしたのかはこの中には出ておりませんが、少し分かれた意見になっております。札幌を中心とした色々な支援機関がありますが、企業として利用されている方は少ないと思っております。こういった機関でどのような支援をしてもらえるのかわからないという面がありますので、なかなか答えづらいところもありますので、特に農業試験場を利用している方のご意見からするとさらに連携強化が必要ではないかと言っております。農業試験場のご利用はあるのですか。

【大江委員】

そうですね。品種設定ですとか技術的なものについては、農業試験場のデータをフィードバックしてもらって農業生産に役立てております。特に農業試験場からのもので、他の機関から定期的に

情報を受けることはないのです、それ以外の機関からどういう情報をもって、どう活かしていくかということも検討しなくてはいけないと考えています。

【北山会長】

それぞれの産業団体によって連携する支援機関も違いますよね。ただ、加工するとか、製造するとかだと工業系になるので、そういったところの連携も出てくるのですが、農業としては一次産品の関係で加工に関する研究などはありますでしょうか。

【大江委員】

加工については、まだ、その段階ではないですね。品種設定ですとか、栽培・育成に関する部分まで、加工や二次加工的な部分までは踏み込んでいないです。

【北山会長】

逆に中小企業などが製造などで、色々支援機関との連携を取り組んでいる事例などはあるのでしょうか。ここには、ノーステック財団ですとか、北海道立総合研究機構、中小企業基盤整備機構など色々ありますが、私が聞いた範囲では、中小機構で農商工連携とか地域資源活用や新連携などで活用されているケースが石狩市内の中小企業であると聞いております。これは、評価として高いので、この計画の中には掲載していくという形になると思いますが、その辺はみなさんから意見ありますでしょうか。

【事務局（武田課長）】

いまおっしゃった事例となります。次の計画を立てるにあたり、今ここに書かれていることが当たり前すぎて載せる必要が無いのではないかなというような視点や、まだまだ載せて計画として遂行していこうといったような考え方など、みなさんのご意見をいただければと考えております。

【北山会長】

それでは、新しい視点でのご意見があればお願いします。

【松尾委員】

ホームページではリンクをされているということなのですが。じゃあ、どのように伝えればいいのかという難しい面もありますが、市のホームページとリンクを貼っているというだけでどれくらいの事業者がそこを見るのかというのは、考えなくてはいけない部分だと思います。ただ、どうすればいいのかというと、コストの部分や手間の部分を考えて何かいいアイデアを持ち合わせているわけではないのですが、やはり何か情報周知で良い手段はないのかなという感想を持ちました。

【北山会長】

そうですね。企業が支援機関のホームページなどで検索して直接結びつくと、こちらの実績がわからないですね。一番大事なのは、どういうアクセスの仕方でも相談をすればいいのか企業さんも分からないので、そこを上手くリードしていく地元の支援機関がもっとはっきり分かれば利用頻度も上がってくるのではないのでしょうか。

【後藤副会長】

松尾さんが言っているのは、この1番目のことに関してだけではなく、取り組み事例の全てに市のホームページと関係という記載がなされているのですが、全般を通して同じことが言えるのではないのでしょうか。積極的に見にくる方は、当然きちっと見られるのですが、なかなかそこまでアクションを起こさない方にとっては、全然触れる機会が無いということなので、積極的な方は

別として、企業にしても人にしてもその次の予備軍の方がもう少し「こんなことやっているんだ」「こんなことできるんだ」というように思えるにはどうしたらよいかということだと思います。答えは今すぐには分かりませんが、会議所の中でそのような話が出ましたので、今後何か良い方法があればということで提言をさせていただきたいと思っております。

【大江委員】

積極的に検索したけれど分からなかった。

【事務局（高石主査）】

残念ながら、市のホームページのCMSというシステム上、なかなか作り込みが難しく、市も情報を多種多様たくさん持っておりますので、本来であれば、ビジネス情報ということでトップページにあればよいのですが、ちょっとまだそこまでいってなくて、ホームページのトップページから「企業・事業活動」「融資・助成・募集情報」そこから初めて「ビジネス支援情報」が出てくるので、そこまでいくのに3層ありますので若干探すのは難しい状況となっております。

【後藤副会長】

私も市のホームページは別のことで色々調べているのですが、本当に迷路みたいで。そこに至るまで、どのように検索すればよいのかなと思ってしまう。

【事務局（高石主査）】

キーワードが分かっていたら、その中で検索がある程度は可能なのですが、やはり分かっていないと難しいところがあるかもしれません。

【松尾委員】

しょっちゅう見ている情報なら行き方は覚えているのでパパパッといけるのですが、この情報ってどうなのかなと、それこそ調べたいキーワードがはっきり間違えないで覚えていけば、それを打ち込んだらパッとでてくるのでしょうか、なんとなくこんなこと調べたいなというときは正直分かりづらい部分はあるかもしれないですね。

【後藤副会長】

そういう時は、例えばどこかの部署にこういうことを調べたいのですがホームページのどこから入っていけば良いのか聞く部署はあるのですか。

【事務局（武田課長）】

ビジネス的な話であれば、商工労働観光課か、全体的なことは、市民の声を聴く課になると思いますが、いずれにしても見づらいということですよ。

【事務局（佐々木部長）】

何年前かにホームページをリニューアルしたのですが、その時には階層をなるべく深くしないで、全ての情報が3回か4回のクリックで見られるようにするというので整備したのですが、それがなかなか狙い通りになっていない。結果的に3層か4層の中には収まっているのですが、やたら幅が広がってしまい、そこから探しにくくなったという話は聞いています。何を大事にしてデザインするかというのが、なかなか定まっていなかったようなことがあって聞いています。

【後藤副会長】

行政に精通している方なら良いのですが、そうでない方だとやはり難しいのかも。例えば、このようなことを調べようと思っても、今おっしゃった1層のところを見てもどれだか全然分から

ないというところから入ってしまうと、多分全くたどりつかないと思います。

【松尾委員】

普通の企業ホームページとは違い、行政のホームページは情報が多種多様で難しいのでしょうか。

【北山会長】

リニューアルは定期的に行われているのですか。

【事務局（佐々木部長）】

定期的ではないですね。前は、5年前位だった気がします。

【大江委員】

思い切って事業連携とかトップページに載せたらいいのでは。こういうのがありますよとか。

【事務局（佐々木部長）】

トップページもなかなか家賃が高くて、取り合いになってしまうのですよ。

【松尾委員】

そうでしょうか。限られていますから。

【事務局（佐々木部長）】

次のリニューアルには、今のご意見も反映させたいと思います。おそらくリニューアルはそう遠くの話ではないでしょうから。

【北山会長】

ホームページの使いやすい方法を研究していただくということでよろしくお願いします。

それでは、2ページ目。モデル領域についての意見交換等の機会設定ですが、これは〇がなくてかなり評価が良くないのですが、積極的に掲載するかも分かれるところですね。評価の×は既に役割が終わったということでしょうか。それとも必要性が無いということなのでしょう。

【松尾委員】

評価は、今の取り組みに関しての評価ということですよ。第3次計画に載せるべきかどうかというのは、そのつぎの質問ですよ。

【北山会長】

評価が悪くてあまり取り組んでいないので、さらに積極的に実施して欲しいという意味ですかね。

【松尾委員】

なんとなく、そのように読み取れる気がするのですが。

【北山会長】

積極的に掲載するを選択された方も2名いますし。これも、そういった情報をどんどん流してほしいということなのでしょう。

【松尾委員】

フォーラムを開催したときにどれくらい聞きに来てくれるかは別にして、ホームページとかではなく生で聞けるような場面があったほうがいいのだろうと考えている方が多いのでしょうか。

【北山会長】

農業関係者とか一次産業関係者とか産業毎に分かれているのでしょうか。まだ、あまり事例的に少ないのでさらに情報提供としてのフォーラムなどを積極的に開催して欲しいということなのでしょうかね。

【有田委員】

要検討ということは、こういうことをしたほうが良いのではないかと検討段階であり未実施ということでしょうか。

【北山会長】

未実施。まだ取り組みはされていないということですね。

【有田委員】

そうですね。僕は、何もされていないのであれば評価できないという意味で×だったのですが、ただし掲載するかしないかは、掲載したほうが良いと思いました。

【松尾委員】

これは、私ども石狩商工会議所で後藤副会長や石狩商工会議所の事務局と打ち合わせをしたときに、今回の話の所だけではなく全体を通してそうなのですが、これを辞めたほうが良いというのは基本的にはあまり無かったです。ただ、それぞれの項目に対してどれだけの力点を置いて、どのようなことを具体的な事業としてやるのかということ聞きながらでないと、なかなかコメントしづらいう話が出ておりました。ここの中でいうと評価をする、しないという部分では、これまでの取り組みについては、会議所として評価できるとかあまり評価できないとかあるのですが、第三次計画については、基本的にこれは辞めたほうが良いというのはあまり無いのかなと思います。

会議所としては、ひとつも×は無かったはずですが。

【後藤副会長】

評価として全ての項目に×は無かったということです。

【松尾委員】

第三次計画に掲載すべきかどうかというところで、私どもの意見として言うと、掲載しなくて良いというのは無かったと思います。具体的に取り組みとして、どのようなことをしていくとか、どれくらい力点を置くのか、検討するという項目もよく出てきますが検討するというのであればどういう形でいつ頃までに検討されるのかということをお聞きしたいという話が出ていました。そういったところも含めないと全部いいねとしか言いようが無いのではないかとということです。

【瀬尾委員】

今の松尾委員のご意見は、もっともだと思います。私もそう思うのです。わたしも×をつけたところはひとつもないと思うのですが、ただメリハリがないというか総花的という印象は強いです。

したがって、定型的なものを削るわけにいかないの載せるというわけでもないのかもしれませんが、やはり削るとちょっと他の機関との間でバランスを欠くとか、市内の利害関係が尖ってしまうとか、そういうことで載せざるを得ないのかもしれませんが、それだけではなくこれを市としてはやりたいというものがあればいいなと思います。具体的には、どうこうと言えないのですがどれもこれもごもってもらいので削るわけにはいかないということは右に同じです。それだけでは総花的になるのかなと、それから事業を進めるうえでスピード感が無くなってしまうのかなという感じはします。

【事務局（武田課長）】

市としては、計画で書く形と具体的に実施計画的な部分と分けるような形になると思いますが、みなさんが色々な部分でガチガチに決めるとその線だけに沿って進める方法しかなくなる。多種多様なやり方も当然あると思います。どうしても具体性に欠けた書き方にならざるを得ないかなと思

います。数年に及ぶ計画ですから、その掲げたものごとを動かしていくのは現実的には企業や商業関係者が主体となって実施していくことになるのかなと思いますので、そこに枠をはめるような書き方はできないと考えております。

ただ、視点をどこに置くかは、次の計画の柱の付け方の際に、みなさんの意見を踏まえて考えていかななくてはいけないと思っています。

【北山会長】

はい。そうしますと(1)試験研究機関、支援機関との連携については、この方針の文言はこのまま残して置くということになります。次の建設業の異業種進出などについても同じようなことでしょうかね。計画の中身を変えていくことではないですね。

【後藤副会長】

ここから読み取るというのは、要はそれぞれが積極的に掲載、あるいは掲載しなくても良いという中で掲載しなくても良いが多ければこれは辞めましょうということになりますが、そうではなくて基本的に三次計画に載せても良いということになるのでしょうか、文章の言い回しは、当然事務局でもう一度検討するわけですね。そこで、当然、二次計画よりもさらに強く推すのであれば、言い回しが変わってきて然るべきだと思うので、その辺は事務局で判断されるのか、それともこの場でもっと強力にやった方が良いという意見があれば、そのような言い回しにするのか、その辺どうなのでしょうか。

【事務局(武田課長)】

皆さんの意見を踏まえて、全体のボリュームがありますから全てが同じにはならないと思いますが、色々とお話を伺った中で事務局で計画案を策定しますので、言い回しが変わってくるものも当然あると思います。

【北山会長】

この審議会の中で意見をまとめてこの文言をどうしていくかということですね。今変える訳では無いですね。

【事務局(武田課長)】

審議会の中で、まだ1、2項目しか審議しておりませんので、これからまだ重要な部分もあるだろうということを考えると、全体の審議が終了し、どこを優先すべきかとなると思いますので、この段階で変えるということにはならないですね。

【北山会長】

それでは、モデル領域についての意見交換等の機会設定については従来と同じようなフォームでお願いします。

次に建設業の異業種進出に対する国や北海道の支援制度の紹介、斡旋については×がないので、だいたい評価できます。第3次計画にも積極的に掲載か掲載すべきがほとんどなので、これは今後とも計画として載せていくということになりますね。建設業関係ですと公共事業は減ってきていますが、民間の住宅のリニューアルなども結構あると思うのですが。

【後藤副会長】

石狩としては、そこに力をいれて建設業をなんとかしようとしてテコ入れをしています。会議所でも、それに関しては積極的に色々な支援をしています。

【北山会長】

新分野に進出するとか、新たな事業の取り組み等についての支援などですね。

【後藤副会長】

全くの異業種には、なかなか難しいということで、会議所の意見としては経営の多角化などの支援制度の創設が必要であるという意見を書かせてもらっております。

【北山会長】

支援制度の創設。例えば、助成金だとかそういった部分ですか。

【後藤副会長】

助成金もさることながら、色々なビジネスの紹介を含めた情報提供など全般的に何かをやる必要があるのではないのでしょうかという意見があります。

【北山会長】

新分野に進出された後の経営相談的なことなどですね。

【後藤副会長】

そうですね。あまりにも、ちょっとマクロ的なのですが。

【北山会長】

これはかなり評価的には進めてほしいという意見ですね。

【後藤副会長】

会議所としては、それ位に深刻なことだと捉えております。

【北山会長】

わかりました。

次に市内企業における成功事例の提供については、ちょっと評価が分かれているので第 3 次計画への掲載は消極的になっておりますね。

【後藤副会長】

ちょっと、よろしいですか。掲載しなくてもよいという方、もし差し支えなければ、どのようなことで掲載しなくてもよいのか。3 名いらっしゃいますが、差し支えなければ教えていただきたいのですが。

【北山会長】

今日、欠席の 3 名ですかね。

【後藤副会長】

成功事例の公開は未実施というのは、まだやっていないということですよ。

【北山会長】

成功事例は無いのかな。そんなことはないですよ。

【事務局（武田課長）】

補助事業で去年も、海と川に育まれた新石狩協議会を商工会議所でやりましたよね。ああいう事業なんかを外に広めて、こういうことをやって取り組みましたということができなくもないのかなと思います。

【後藤副会長】

これは業種関係ないですよ。

【事務局（武田課長）】

この件については、文脈的な流れからいって建設業的なイメージとなっております。

【後藤副会長】

建設業の流れでこうきている。そういうことですか。

【北山会長】

建設業の異業種進出の成功事例ですね。

【事務局（武田課長）】

分かりづらくてすみません。

【後藤副会長】

そういうことですか。建設業の異業種進出の成功事例という読み方をしなくてはいけないのですね。

【事務局（武田課長）】

そうです。無いわけではないと思うのですが、今取り上げるというのは無かったかなと思います。

【松尾委員】

無いわけではないと思います。私の仲間もそれまでと業態を少しずつ変えていって、今非常に忙しいと言っている人もいますので。人の前で話したいかは、また別ですけど。

【後藤副会長】

建設業でしょ。

【松尾委員】

建設業です。

【事務局（武田課長）】

そういう成功事例を皆さんに知っていただく機会があればいいかなと思います。

【後藤副会長】

建設業では無いですけど、運輸業できのこ総研はもともと寿運輸さんで運輸会社ですよ。きのこの栽培でどんどん伸ばしている。どこかに紹介をしても良いのかなという気がしますよね。

【北山会長】

モデル事例ですよ。ビジネスの。

【大江委員】

そうですね。新港の真ん中できのこを作っているのびっくりしました。国道沿いで見えるのでなんなのかなと謎だったのですが、以前新聞に掲載されていて、そういうことなのだと分かりました。成功事例として取り上げたほうがいいのではないかと思います。

【後藤副会長】

ビニルハウスから始まって成功していますよね。

【北山会長】

白老とか他の地域でもやり始めていますよね。そういったビジネスモデルもあればぜひ載せていくというような。

【後藤副会長】

いや、問題は建設業の異業種進出などに関する成功事例収集提供を掲載するべきが 3 と掲載しな

くともよいが3なのでどうなのでしょうかね。この場で、やめたほうが良いとかうんぬんとか結論を出すべきものではないのでしょうか。

【事務局（武田課長）】

いや、なくていいと思います。皆さんのお話で意見を色々言っていただければ。

【後藤副会長】

先ほどから何うと、皆さんは反対ではないということですよ。会長、よろしいでしょうか。これに関しては、引き続き掲載してもいいのではないかとということ。

【北山会長】

いいですね。それでは次に（2）地域産業クラスターに向けての検討促進。クラスターに関する情報の収集・提供。評価は良いですよ。これについても積極的にやってほしいということですね。さらにこうしてほしいとか具体的にご意見があれば。自由意見で新港地域の振興を図る必要があるとありますね。

【松尾委員】

これは、最初の公的試験研究機関でのお話と似ているのですが、結局何かをしたい時にどこに聞けば良いのか分からないということだと思うのです。あとは繋がっていけるかはそれぞれの判断なのでしょうけど。

【北山会長】

相談したいところの支援機関がよく分からないということですね。

【松尾委員】

あとは他の事業者が、そういったことのノウハウや資材をもっている場合など、どこにいった誰に聞けば良いのか分からないということなのかなという気がします。

【北山会長】

企業間は、なかなか難しいでしょうね。

【大江委員】

企業間は、最初に繋がっていないので分からないのですよ。

【松尾委員】

あの人に聞けば、作っているよというのが分からない。たまたまこの間もそういった話があって、あそこに行ったら作っているよという話で、その後はそこに行ってお話をしましたが、そういうことなのかなという気がします。

【北山会長】

石狩のことはわからないのですが、札幌の場合では各会議所の中で同業種の部会を作って、定期的な交流を図っているのです。例会のような。そうすると今言ったようなお話の中で繋がってくる部分が出てくるので、積極的に参加している企業がいますね。各団体組織、支援組織でそういった交流の場をたくさん作っていったら、情報交換ができればそういった問題もある程度解決すると思います。

【後藤副会長】

石狩の商工会議所では、同業の部会でまとめようという話はあるのですが、まだ実現していません。括りが大きすぎるから。

【松尾委員】

我々の部会はそうですね。あまりにも大きいので分科会のような形に分けたほうが密な情報交換ができるのではないかという話はでています。

【後藤副会長】

公的には札幌商工会議所が行っているような部会に分かれて定期的に例会をやって情報交換というのは、やっていないです。個人的にはやっているのかもしれませんが。

【北山会長】

青年部や女性部の括りの中ではやっているのでしょうかね。

【松尾委員】

部会自体あることはあります。月に 1 回集まるとかそういうものではないです。

【北山会長】

それぞれの企業がこうした具体的な情報入手が重要になっている。私の経験から、販路開拓とかで、こういった情報交換出来る企業がないとか、新しい商品を作ったのでこういう企業と連携したいとか、そういった場合に有効な情報交換出来る場がなかなか分からないとね。企業間同士のマッチングの場は、非常に大事ですよ。

【後藤副会長】

そういうケースなら同業種もさることながら異業種の交流、意見や情報提供があったほうが飛躍的に伸びますよね。

【北山会長】

同業種よりも異業種の連携ケースのほうが多くあります。建設業でも同じ業種ではなく一次産業等の業種への事業化にいく場合や農業の場合もあるでしょう。

【後藤副会長】

同業種は地域性もありますが、なかなか全部さらけ出せない。北海道の人間はわりとオープンなので他の地域から比べると同業でもオープンにすることが多いが、それでもなかなか最後の最後まで。逆に異業種だと警戒感が無いので色々なノウハウも成功失敗事例も全部さらけ出すというか、そのほうがためになる話があります。

【北山会長】

この後出てくる農商工連携の話にもなるのですが、他に無い新しい商品を作って差別化して売っていく場合も連携として一次産業は、非常に大事になりますね。それでは、これについては、評価が良く積極的に掲載していくということによろしいでしょうか。

次の(3)の農商工連携事業、新連携事業及び地域資源活用事業の活用についても促進すべきだと、これも評価が高く、積極的にやっというアンケートの結果からでています。結構、具体的な支援メニュー、紹介がありますよね。

今、農業のほうで製造や加工を企業との連携で何か新しいものを作ってみようかという動きはないのですか。

【大江委員】

色々小さいものからたくさんあると思うのですが、ただどれもこれも大きく出回っているものではなく、地場で消費されている分くらいしか流通されていないという現状です。そこら辺が今後の

発展へのキーポイントとなってきます。

【北山会長】

各地域で野菜や果物のジャムを作ったりしていますが、そういった動きは最近出てきているのですか。

【大江委員】

過去からずっとあるのですが、地域で消費されている分くらいの生産量にとどまっているということですか。

【北山会長】

地物市場とれのさとでも、ちょっとした加工品もあるのですよね。

【大江委員】

結構ございます。

【北山会長】

ああいったものにさらに磨きをかけて札幌や東京の市場にも売っていけるような。

【大江委員】

その部分が、生産体制も整っておりませんしPRもできてない。当然、流通も整っていないということなので、いかにして拡大していくかが今後の課題です。

【北山会長】

ちょっと飛躍しますが、とれのさとは、毎日たくさんのお客さんが来ておりますから、さらに空きスペースを利用して、石狩らしい色々なものを集積していけば、もっともっと相乗効果が広がっていくと思うのですが。

【大江委員】

ギフトにするとか、色々な方法があるはずですが。

【北山会長】

札幌に近いので結構、買いに来ますよね。

【後藤副会長】

札幌市民は、4割位でしたっけ。

【大江委員】

4割位は、札幌市から来ていますよね。

【北山会長】

まだ、あまり知られていないのですかね。だんだん徐々にでしうかね。

【大江委員】

ここは、手稲区や北区新琴似と隣接しており、通勤圏でもありますので札幌市民は利用されていると思います。

【後藤副会長】

今年は、色々なイベントにも力を入れておりますよね。

【瀬尾委員】

事業としては、ペイしているのですか。

【大江委員】

はっきりペイしているとか、していないとかの段階ではないです。これは組合員さんに生産して貰って、組合員さんたちが農産収入を上げて貰いたいということですので、どんどん販売量が増えると組合員さんの収入が増えるということなので、それにいかに農協が貢献できるかということなのですが。利益はまだとれていないと思いますけど。

【北山会長】

そうですね。安く売っていますからね。農家さんが持ってきたもののだいたい2割位ですか。

【大江委員】

そうです。約2割ですけど、諸経費が掛かり初期投資もありますので、市の助成もあってやっていますので。

【北山会長】

まわりの飲食店もかなり増えてきて、駐車場もかなり広くとっていますので、何かさらに来るお客さんも見込めるのかもしれないですね。

【大江委員】

ただ、あそこは地場製品の販売以外はなかなか認められていない地域なので、拡大するなら地場産品で伸ばしていきたいと考えています。

【後藤副会長】

トマトチャウダーは去年出したのですよね。あれは、継続的に今年もやるのですか。

【瀬尾委員】

あれはすばらしい商品ですよ。

【有田委員】

今年は、まだやっていないです。

【後藤副会長】

去年は、あの時期に作ってある程度ロットを作ったのでしょうか。

【有田委員】

去年の時点でも、試作の段階でようやく味が固まったかなというところで終わっています。

【後藤副会長】

今、取り組み事例で載っているのが継続的にやられているところはどこなのでしょうか。例えば、ハーブマット開発はやっていきますか。(株)テクノブレインさんの。

【事務局 (佐々木部長)】

まだ、やっております。まるとフェスタにも出ております。

【後藤副会長】

そうですね。とみきさんの石狩鍋レトルト開発は、継続しているのですか。

【事務局 (高石主査)】

やっております。

【北山会長】

もうちょっとで商品化するでしょう。ちょっと今、他の事業で忙しくて飛び回っていますけど。

【後藤副会長】

トマトチャウダーは去年出して、今年はまだなのですね。とれのさとの野菜ソムリエは木村さんがやっているやつでしょう。最後のふるさと財団の P T S の木織というのかな、これは何なのでしょうか。

【事務局（武田課長）】

木をスライスして、紙状にして色々な用途に名刺やブックカバーなど、製品化しています。

【事務局（高石主査）】

繊維までして、織物状にしています。

【後藤副会長】

名刺に使うのは昔からあるよね。

【事務局（高石主査）】

やわらかくする新技術開発ということです。

【後藤副会長】

これは地場の方なのですか。

【事務局（高石主査）】

そうです。新港にある会社です。

【後藤副会長】

そうですか。

【北山会長】

このマーケティング等専門機関、大学等研究機関との連携・利用促進もかなり評価も良いし、積極的に進めてほしいということですよ。今後とも、農商工連携や新連携や販路開拓の支援は積極的に行って欲しいということですよ。

それでは、次に特産品等の知名度向上活動ですが、これも高い評価ですね。今後も積極的に掲載をしてほしいということですね。私が自由意見の最初のところに出したのですが、国の支援制度と道の支援制度がありまして、新しい商品を作りたいと考えている一次産業の方、それから二次、三次産業の方、連携してもいいですし、それぞれでも良いのですが、結構支援内容があるのです。三分の二の補助金ですから、新しい製品を作るための研究開発費だとか、作った商品を市場に出して売っていくといったものも三分の二の補助金を出すものもありますので、ぜひ活用するような働きかけをやっていって欲しいなと思います。これは積極的に今後とも計画として推進するという位置づけですね。

【松尾委員】

会議所でやらせていただいている事業はこれなのでしょうか。

【事務局（高石主査）】

同じ三分の二なのですが、ちょっと違います。

【北山会長】

会議所のですか。

【松尾委員】

さくらんぼのビールですとかをやらせてもらっています。

【北山会長】

それは会議所が補助金を貰ってやっているものですね。国・道の支援は企業直接です。一次産業の当事者へ直接いく補助金です。個人でも法人でも、事業者であれば農業者、漁業者でもいいのです。結構手を挙げて、当然認定という壁はありますが全道的に利用されている方がいますので、ぜひ新しい取り組みをする企業さんにPRして利用してもらうことは、市内の企業にとってもいいことだと思います。

【後藤副会長】

前からある制度なのですか。

【北山会長】

農商工連携は、平成20年から。地域資源活用は、平成19年から。新連携は、平成17年からです。もう4、5年位は経っています。北海道の制度は3年位前からです。

【後藤副会長】

毎年予算がついているのですか。

【北山会長】

ついています。

【後藤副会長】

枠があって、その枠に達したらその年ということですね。

【北山会長】

そうですね。計画に対する審査会が北海道の場合は2回位、国は3回位あります。計画の認定した後は、その補助金の審査により補助金を出していく。新しく商品を作る段階でも研究開発費の補助金もあります。できた商品売る場合も、例えば商談会で東京に行くとかの費用についても三分の二の補助金があります。

【後藤副会長】

上限はもちろんあるのですよね。

【北山会長】

上限は三分の二で、北海道の場合は、500万円位まで。国の場合は、3000万円までと高いです。ハードルは国の方が高いのですが、一次産業の農商工連携で利用されている方もいますし、農業サイドでは六次化産業。今年度から、だんだん具体的に農林省のほうで広げてやるようなことを言っていますので、こうした情報を収集して、農業者に情報を流していくといいですね。これは評価も良いし、今後も積極的に取り組んでいくということですね。

次に(4)金融支援の強化については少し分かれるところですね。×はないのですが。市の独自の融資制度もありますし、国や道の融資もありますよね。ただ、やはり経営の厳しい企業への融資ですから返済が伴うので厳しい関係にあります。企業の動脈なのでこの支援は、今後とも積極的にやって欲しいと思います。△の消極的な評価の方は、どのような意見でしょうか。

【瀬尾委員】

掲載するべきにはつけたのですが、先ほどの松尾さんの意見とも関連しますが、要するに総花的であって削るものはない。確かに削るものはないのですが、融資についてはむしろ充実しているように私は感じます。私も融資をうけたことありましたが、そんなに苦勞をしなくても融資が可能だ

った経験があるものですから。ベーシックなものは揃えておいても、それ以上は特に必要ないのではと、それよりも事業に可能性があるのなら喜んでお金を出す人がいるのではないのでしょうか。公的なもの以外にという意見です。

【北山会長】

借りている方が、さらに新規事業や設備投資する場合、利益が出ている企業なら良いのですが、商売ですので赤字になる場合もあります。そういった場合に金融機関や融資する側としては、融資の返済が伴いますので、例えば担保を求める場合や保証協会付きもありますが、黒字の企業は借りやすい状況にあります。逆に本当に困っている借りたいところはなかなか借りづらい例もあると思います。計画書を作って、企業さんが借りる金融機関に説明に行くということがありますが、創業だと自己資金半分位を持って、例えば 500 万持っていれば 500 万位の融資という道はありますが、なかなか商売に浮き沈みがあって、本当に借りたいときに借りられないというケースもあります。条件変更して返済を後に伸ばすとか。市では利子補助もやっていますよね。これは、それぞれのケースがあって難しいですが支援というのは当然していかなくてはいけない。今後も当然進めるべきだと思います。

次の公的支援と連動した支援制度の創出ですが。これは、信用保証料補助を市でやっていますよね。これは、市の単独の制度ですか。

【事務局（武田課長）】

そうですね。

【北山会長】

石狩市中小企業緊急支援信用保証料補助制度は、平成 20 年度から平成 22 年度までやっていたのですね。これも当然、要綱か何かで定められているのですかね。

【事務局（武田課長）】

そうです。

【北山会長】

これを拡充して欲しいという審議会の意見では駄目ですか。今の支援の枠組みで良いということで良いのですかね。

【有田委員】

補助金は、どの位まで出せるのですか。

【事務局（武田課長）】

東日本大震災等関連信用保証料補助金交付要綱で保証料補助金は最大で 20 万です。融資額によっては、全額みてもらえる例もあります。

【北山会長】

あれは、融資を受けた場合の保証料について保証協会が 9 段階位あります。1 パーセントとか、融資を受けたときに天引きされてきますので、生水が減ってきますので、利子補助というのは企業にとっても助かるわけです。

【松尾委員】

ありがたいですよね。

【北山会長】

そうですね。これは今後とも積極的にという意見が多いので。

【松尾委員】

どれ位が良いと言われたら、借りるほうからすれば多く貰えるほうがありがたいのでしょうか。

【事務局（武田課長）】

これについては、支援制度をもって支援していくということなので、今回具体的な例がこれですが、今後 2 年間やって、これが良いのかというのは環境によって変わると思います。今の制度については皆さんから非常にありがたいという意見を頂いております。

【後藤副会長】

平成 23 年は、昨年と比べたら同じようなペースですか。

【事務局（高石主査）】

若干、緩いペースだと思います。というのは、信用保証料補助制度が道のセーフティネット融資を受けている企業をメインにしていますので、もう一巡しきっているというのがありまして、前述の信用保証料補助制度の時にほぼ使っているというパターンが多いですので、今年始めました東日本大震災等関連信用保証料補助制度については、若干ペースダウンしております。

【事務局（武田課長）】

名称は違いますが、事実上借入対象者は同じで、先ほど一巡しているとお伝えしましたが、そういう部分で対象者が減ってきていると思われれます。

【北山会長】

会社でも、推薦すると日本政策金融公庫で無担保、無保証というのがありますし、金利も安いですから、こういったものを利用していけたらいいのでは。農業関係でも、そういったものは何かあるのですか。

【大江委員】

国からの利子補給ですとか、融資はあります。同業者に貸し付けるというのはございます。

【北山会長】

利用する方は多いのですか。

【大江委員】

はい、かなり。

【北山会長】

農機具だとか。

【大江委員】

はい。近代化資金とかハウスの導入資金とか、市が戦略的にハウス設置に対して利子補給するような融資もあります。色々、農協ですとか農林中金を通してあります。

【北山会長】

農業普及相談員ですとか、相談に乗るのですか。

【大江委員】

いえ、一切それは。農協のプロパーもありますし農協が窓口になっています。

【北山会長】

資金調達の円滑化で評価は厳しいですが、さらに積極的に経営相談などをやってほしいという意見ですね。それでは、今までの話をまとめますと、公的支援と連動した支援制度創出と資金調達の円滑化については、さらに積極的に進めてほしいということによろしいですね。

次に 2. 人材育成と確保。この件については、(1) から (2) をまとめて話していきます。まずは、(1) 関係機関等との協議・協力体制の強化。セミナー等の情報提供、専門機関の利用促進。これは、×はなくて積極的にやって欲しい、従来通りにやってほしいということですかね。さらに強化して積極的にやって欲しいが 2 名いますが、特に強化して欲しいことは、何かありますか。次の (2) 労働力確保への支援についても、だいたい同じような評価と意見ですね。

【瀬尾委員】

この労働力確保に向けた支援の自由意見で最後の三行は、私の意見なのですが、(株)石狩しいたけファームの実績について社員にこの面での報告をしていただくとになっておりますが、これは社長ですね。ぜひ私個人としてもお話聞きたいですね。さきほどから話題になっていますから。

【北山会長】

この(株)石狩しいたけファームは、市で支援はしているのでしょうか。

【事務局 (武田課長)】

支援といえますか、北海道の補助メニューで「新一村一雇用おこし支援事業」というのがあり、私どもの方で事業により、市内で雇用がこれだけ生まれるので補助採択してくださいと市の推薦状を出しています。この事業で 47 名の新規雇い入れがありました。

【瀬尾委員】

新規が 47 名。すごいですね

【後藤副会長】

新規は、正社員という意味ですか。パート含めてですか。

【事務局 (武田課長)】

新規雇い入れとしか書いていないですが、雇用保険の一般被保険者、常用の従業員であればいろいろな形態があると思います。

【北山会長】

いつ頃からですか。企業として総合してやられたのは。去年あたりからですか。

【事務局 (武田課長)】

平成 10 年ですね。今回申請したところは、新しい事業体になっておりますけれども、同系列で平成 10 年からやっております。

【北山会長】

菌床でしょうか。

【大江委員】

菌床です。

【北山会長】

しいたけの需要は結構あるんですね。

【事務局（武田課長）】

あると思います。

【北山会長】

他のキノコと違ってしいたけは、そういう意味では北海道内でも増えていっているのではないでしょうかね。

【後藤副会長】

石狩は結構あちこちで作っておりますよね。

【北山会長】

愛別町や白老町の方とか。東北から種を買うのですよね。苗にしても、菌床にしても栽培方法はそんなに難しくないのですが、事業化しやすいけど種がなかなか手に入らないのですよね。

【後藤副会長】

他の菌がついちゃうとアウトなのでしょう。だから大変みたいですよ。

【大江委員】

洗浄が大変なのですよね。元から組合員さんでキノコ栽培をしている人がおりますが、もう工業製品だと言っております。工場で作るものだと。大規模寡占化になってきて中小が食べていくのがやっとというのが現状らしいですね。

【北山会長】

規模が拡大していっているのでしょうか。

【大江委員】

いえ、寡占状態になってきております。

【北山会長】

もうなってきたのですか。2年くらい前はまだでしたけど。

【後藤副会長】

確かにしいたけは、多いですよ。

【大江委員】

規模大きくて大量生産のところになわなくなってきた、小さい所が販売の弱い所から淘汰されていっている状況ですね。

【後藤副会長】

きくらげは、難しいのかな。だからほとんど作っていないですよ。

【北山会長】

これも継続して支援をしていくという事ですね

次の高齢者・女性・障がい者雇用に向けた意識啓発・情報提供です。これも積極的に今後とも当然少子高齢化になっていきますので、今後5年間でさらに積極的に進めるべきだと。なにかもっと強化拡充してほしいということなんですかね。

【後藤副会長】

自由意見なんですけど、ちょっと興味があります。どなたでしょうか。

【瀬尾委員】

高齢者ですか、私が実際に進めていることです。まだ始めたばかりで成果は上げておりませんが。

私とペアを組んでいるのが元中堅商社の札幌支店長だった男なのですが、とにかく顔が広いものですから営業活動が進めやすいですね。また、年金貰っておりますから経費がぐっと安くて済む。

足代+ α に酒代で動いてもらっているという。私自身も年金でベーシックな部分の生活はまかなえる+ α の部分は勤労奉仕だと思っておりますので。

【後藤副会長】

そういう方をグループ化して色んなことをやられているのでしょうか。

【瀬尾委員】

やろうと思っておりますが、まず手掛けた仕事に悪戦苦闘しているのですこまでいっていない。それも大きな中で考えているが、まずは部分的に一人二人で取り組んでいるということですね。ただ若い人の邪魔にならないようにこの収益構造が難しい分野だけに特化していけばいいのではないかと考えております。成功したときに若い人にバトンタッチとかそういう考えでいけばいいのではないかと考えている。

【後藤副会長】

若い者という意味は、今生業としてやられている若い人間の職育を荒らさないという意味ですか。

【瀬尾委員】

そうです。仕事というものは、この世の中に無いというものはないですけども、新しい分野というものは本当に難しいのですよ。私も色々なことに挑戦してきて失敗してばかりだったのでですけども。そういう分野でOBの人達が頑張ってもらえば、リスクを極力減らした中でやっていけば社会のために少しでも貢献できるのではないかなと考えております。

【後藤副会長】

シルバーさんがやっているような領域じゃない部分でということですか。

【瀬尾委員】

そうですね。草刈とか枝切りじゃなくて事業としてですね。

【北山会長】

隙間で競合しないような。なかなか難しいですが。そんな過大な収益や利益を上げなくても、ある程度生活基盤が整っているからやっていけるのでしょうか。

【瀬尾委員】

典型的に除雪の仕事なんかそうだと思います。結局、民間事業者はたくさんありますが、シルバー人材センターに頼むのは、要するに安くしてくれとかそういうニーズですから本当のニーズではないのかなと思います。むしろ、除雪してもらいたくても金銭的に厳しい高齢者宅とかを公的な扶助でシルバー人材センターを利用して安くやるっていうのが本心じゃないかと思います。まともな生計を営んでいる人がシルバーを利用して安く上げようとするのは本末転倒だなと私は思います。

ですから、そういう面でのシルバー人材センターというのはいいいと思います。質問を受けましたので、私独自の考え方をいえば、年金生活者は、高い低いはありますけれども、ベーシックなものはある程度、厚生年金だとか公的な年金を受けている人はあるわけですから。そうかといって仕事はやりたいけどなかなか仕事をやらしてくれる部分が無いという話があるのですが、ひとつの事例として雪かきですね。生活困難者・高齢者の雪かきをお手伝いすると。それは、一つの公的な枠を組んでの話なのですが、そういったところでも働きたいけれどもいっばいだとか言うことにな

ってくるちょっとまずいなという思いがあります。私はもう極端な事を言えば自給 500 円でもですね働きたいという人はいるのではないかと思いますね。そういう意味では最低賃金を制限する特区があっても面白いのではないかと思います。

【後藤副会長】

今その除雪を考えてらっしゃるのでしょうか。

【瀬尾委員】

いえ、そういうことでは無くて。私は商売人ですから、商売の方で例えば新規商品を軌道に乗けると、まともな営業マンだったら 30 万から車賃だとか電話賃を持つということになってくると、そうですね最低 40～50 万位はかかるのではないのでしょうか。1 人の営業マンを抱えとなると、やりたくてもやれないという分野は、結構あると思うんですよね。チャレンジするという上では、先ほどからお話があるようにお金が限られている中でやるっていうのは。従ってそういう面で元営業マンとか店舗管理者だとかそういうプロの眠っている経験を掘り起こすということでなんかあるのではないかと思いますのですけれども。ただ仕事を抱えてあっぷあっぷなものですから、夢はあるのですけれども、体が回らないという状態なのです。

【北山会長】

今後、当然少子高齢化になってきますので、これからそういった方々に対する支援が必要になってきますので市として支援していくということですよ。

【後藤副会長】

深刻な問題ですよ。高齢者の職というのは。

【事務局 (佐々木部長)】

色々と考えていかなければならない話です。

【北山会長】

ただこれは、商工だけの問題ではなくて全体の基本的な問題ですよ。

【事務局 (佐々木部長)】

今は、有償ボランティア的な動きの中で高齢者や障がい者の冬場の生活支援は行っておりますね。

【後藤副会長】

除雪の問題っていうのは、北海道で生活していれば切っても切れないし、札幌市は完全に除雪費が破綻状態ですからこのまま続けられなくなるだろうと。石狩だってそこまでいって無いにしても徐々に色んな問題が出てきておりますよね。

【北山会長】

石狩市の場合は、まだ捨て場があるからいいかもしれないですね。札幌市は、捨てる場所が無くなってきている。雪で隣同士で喧嘩したりもあつたりする。結構、OBの方で若い時経験したことを生かしていくっていうのは、何人かで出来ればさらに相乗効果としてビジネスとして成り立つ部分が出てくるかもしれないですね。ただ既存の企業があつて競合しちゃうと難しいですよ。

【瀬尾委員】

それはすべきじゃない。既存の分野を荒らすべきじゃない。

【北山会長】

例えば一次産品を使って新しい商品を作るとか。一次産業と絡ませて何かできたらいいですね。

後は、就業支援体制の強化。若年労働者の関係で何か市として、支援や助成制度みたいなものはあるのでしょうか。

【事務局（武田課長）】

若年としての隔てはしていませんね。北海道とかでは、若年に対して特化しているものはありますが、石狩市は基本的には全年齢対象という考え方です。

【北山会長】

わかりました。それでは、今までの話をまとめますと（１）から（２）については、このまま従来通りの支援でということによろしいですね。

次に 3. 地場産財の普及と販路拡大について。（１）地産地消の促進。これは、イベントPRをこれを積極的にして欲しいというのが圧倒的に多いです。直売所MAPでのPR。よくHPとかで地場産品などを載せているのでしょうか。

【大江委員】

J A石狩のホームページがございませけれども、まだ地場産品を特別PRするコーナーはまだ仕上がっていない。まだ工事中です。

【北山会長】

前回、色々話に出た道の駅についても市内に無いということなのですけれども、今おっしゃった地場市場とか佐藤水産のサーモンファクトリーとかが道の駅に近いような機能をしていますよね。

だから交流人口をきちっと受け入れていくような場所を石狩市としては、札幌商圏に入っておりますので、さらに拡充していったらいいですね。それだけのパイはあると思います。これは一つや二つの企業で出来る問題ではないから、ある程度各産業団体ごとの取り組みと連携があれば実現するのでしょうか。

【事務局（佐々木部長）】

道の駅はですね、浜益で昔から作りたいというイメージはあるのですけれども、どうしても道の駅が出来てしまうと、周辺への影響が大きすぎるために周辺にあるお店がどうなんだという話がありまして、なかなか作りたいねというところから先に進んで行かないのです。現在そういうようなところで足踏みしている状態。岡林局長にかそういう話ってありますでしょうか。

【岡林委員】

出てこないですね。群別のはまます郷土資料館の上、国道沿いでカフェ・ガルをやっておりますが、あそこもやっぱり当初の見込みと実際を確認していないので分からないですが、状況としては厳しいものがあるのかなと思います。

【北山会長】

駐車場もありますよね。

【岡林委員】

ただ、あそこはちょっと国道側から山があって見えないのですよね。だから知っている人があそこに行くという目的意識を持たないとそのままスルーしちゃうというように、立地条件が悪いという面もあるのです。厚田にも観光案内所ということで行政の支援を受けて建物を出来てやっている部分もあるのですけれども、あそこもやっぱりなかなかその当初の見込みから見ると、その計画のレベルからかなり低いという状況があるんですよね。やっぱりいろんな要因があります。

例えば、この間の高速道路の無料化というようなテストケースが実行されると、国道 231 号線の交通量が激減するということになりますよね。そうすると当然、高速の方に持っていかれて、例えば宗谷管内では、旭山動物園に行き手塩に行ったりどこに行ったというところでお客さんが増えている。そういう影響もあるものですから。構想で道の駅ブームの時には声が出たのですがけれども、今部長がおっしゃったように地元で商売している人達にしてみると、そこで全部売られてしまったら自分達のところが大変になるねという意見もあって難しい状況です。

【後藤副会長】

石狩は、もともとそういう計画は無いのですか。

【事務局（佐々木部長）】

石狩では、あまり話題になったことはないですね。

【後藤副会長】

空知管内はすごい数ありますよね。

【岡林委員】

ありますね。滝川、深川、歌志内とか奈井江もあります。

【北山会長】

一市町村一カ所なのですよ確か。結構、造成やトイレとかかかりますよね。

【後藤副会長】

三笠もありますね。軒並み隣町同士ありますよね。

【北山会長】

一般のものよりも地場で採れる特産品などを陳列していますよね。トイレだとかちょっとした飲み物とかも結構売れておりますよね。

【後藤副会長】

やっぱり最初は、補助金出るのでしょうか。

【事務局（佐々木部長）】

補助金はほとんど出ないと聞いております。

【事務局（武田課長）】

地元自治体の負担が必要です。石狩市の交通量を調べていくと、トイレの数とかある程度揃えないと道の駅にならないですよ。通年の夏の時期は一時いいのですが、冬の時期は過剰投資になってしまう。実際、北海道で言えば日本海側の函館から石狩まで道の駅を見てくると、恵庭市のような大きな道の駅でたくさんお客さんが来ているところがひとつも無いですよ。要するに冬の時期は、日本海側を走らない。ですからどこの道の駅もこんなものかみたいなものしか作られない。冬は物が売れないっていう状況ですから結構難しいゾーンではあると思います。

【松尾委員】

石狩市は、夏と冬ではまったく違いますよね。

【瀬尾委員】

道の駅の収支報告書を一覧表に出せば面白いですよ。

【北山会長】

余談ですがけれども、石狩市内はコンビニが少ないですよ。あまりないみたいですけど。

【後藤副会長】

人口の割にあるのではないですか。

【松尾委員】

それなりにあるのでしょうか、それが対人口比で多いのか少ないのか分からないですけど。

【後藤副会長】

逆に人口の割に多い気がするけどね。

【瀬尾委員】

ただ石狩市は、札幌市は別格としても他の市町村と比べると昼間人口が夜間人口より多いんじゃないでしょうか。

【後藤副会長】

逆じゃないでしょうか。

【瀬尾委員】

逆ですか。少ないですか。石狩湾新港があるから。

【後藤副会長】

石狩湾新港に関しては間違いなく夜は人が少ないですね。新港の 1 万人が仮に札幌から通っているとしたら、石狩市内は 1 万人どころじゃないですよ。

【瀬尾委員】

それ以上が札幌に通っているということですか。

【事務局（佐々木部長）】

石狩市は、現在昼間人口の方が多いです。

【後藤副会長】

やっぱり多いですか。それは、新港が寄与しているということですかね。

【事務局（佐々木部長）】

そうですね。前回の国勢調査では。要は、団地の中で札幌に通っていた方たちが退職されて家にいらっしゃるということと、新港に働きに来ている人が増えているということですね。

【後藤副会長】

緑苑台は、間違いなく札幌のベッドタウンですね。昼間閑散としておりますね。

【大江委員】

新しい造成地はそうなんでしょうけれども、花川北も閑散としておりますよね。

【後藤副会長】

花川北には高齢者も多いものね。

【事務局（武田課長）】

コンビニで言いますと、昔花畔の角も北海道トップクラスの売上があったみたいですがけれども、現在は、新港の中のコンビニが北海道トップクラスの売上を上げるようですね。

【北山会長】

そうですね。新港は、お昼の弁当のためにもコンビニがないとね。

【後藤副会長】

昼の売り上げは、凄いでしょ。セイコーマートは、ホットシェフでその場でやっております

から。大型のトラックとかもたくさん来ていますね。だから、コンビニへ行くと取引先の部長とか社長に会えますからね。昼時に。

【北山会長】

夜は閑散としておりますよね。

【後藤副会長】

夜は、しょうがないですね

【後藤副会長】

ですから、ほか弁が作らないのはやっぱり夜商売にならないからなのですね。昼と同じくらい夜にお客が来ないと。まあ半分でも夜に購買があれば、絶対にほか弁を作りますよね。

あと、地産地消のための支援相談への場を設置検討すると文章に入っているんですけど、これはやるとしたらどこで設けるのでしょうか。

【事務局（武田課長）】

まあ色々あると思うのですが。現在、J A さんで緊急雇用で一人います。

【後藤副会長】

いらっしゃるのですね。

【大江委員】

地産地消コーディネーターを一人採用しております。

【後藤副会長】

こちらの取り組み事例に書いてありますね。具体的にどこでどういうことをされているのですか。

【大江委員】

とれのさとに常駐しております。流通関係にいた方です。

【後藤副会長】

今の J A のコーディネーターというのは消費者とのパイプ役をやっているのでしょうか。

【大江委員】

実際の仕事は、地産地消コーディネーターという名称を使っていますけれども、生産者から採れた農産物をいかに一般市民の方に P R していくのかというものなので、店舗のディスプレイですとか、イベントの企画ですとか、先ほど言ったホームページの企画等もありますし、色々なところで活躍しております。

【後藤副会長】

看板出ているのでしょうか。

【大江委員】

看板は出ておりませんが、そういう役割でやっております。

【事務局（武田課長）】

現在は、おります。これら設置検討という書き方になると、どこでやるのかというのがあります。

J A ばかりでやる必要は無いんですけど、漁組さん関係でもいいですし、石狩市が絡んだ形でもいいでしょうし、それぞれの分野で効果的に配置していただければさらに活性化するでしょうという書き方になっております。

【北山会長】

それでは、地場製品の P R は、今後とも積極的に進めていくべきだということですね。
次、一次製品の地域内流通の促進。生協と競合するような話ですね。

【瀬尾委員】

それは私の意見です。よく分からないですけども、生協の宅配というのは、かなり発達してきておりますから大丈夫かな。頑張ってもらいたいなと心配なのですけども。

【大江委員】

地域内流通事業は、現在実施しているのですけども、前に話しておりました石狩の事業者、運送事業のプロの方ですとかそういう事業者と結びつきを強くして事業展開を図っていかないと J A だけでは、かなり厳しい状況になってくると思います。

【後藤副会長】

宅配と言っても生協に限らず緑苑台イオンだっけいずれやるんじゃないですか。全部でやるって話が出ておりますものね。イオンは、現在限定してやっておりますね。そういう意味では、宅配は、普通になると思うんですよ。ただ、やっぱり直に物を見て買いたいという欲望は、高齢の方ほど強いですよ。だからこそ、昔ながらの移動販売車。今一部でやっておりますけれども、それがまるしえ便もそうだし、くまさんもね。品ぞろえは、別としてやっておりますよね。あれはやっぱりファンは多いですね。

【大江委員】

ファンになっていただくような商品が必要ですね。

【後藤副会長】

事業者側から見ると本当に採算難しいよね。

【大江委員】

今のところ厳しいんじゃないかと思えます。

【瀬尾委員】

副会長がおっしゃったように物を見たいという基本的なものがあるのですよね。森永のキャラメルや明治のチョコレートなんて見ないでも買うと思うのですけれど、ところが生鮮食品なんてまず物を見たいという気持ちがありますよね。ですから、私も昔に若干経験があるのですが、物を持って行って販売するというのが。私は思うのですが、農作物にしても魚にしてもどうして石狩のものを石狩市内で売るのだらうという。私どもはちょっと研究会やったことがあるのですけれども、地産地消ではなくて地産他消にすべきだと。よそで売ればいい。そのほうが売れるし儲かるという事実があり、そうだらうと思うのです。どうしてそれをやらないのかなという思いがあるのです。

【後藤副会長】

いや地産他消は、やっているのではないのでしょうか。

【大江委員】

これは、色々あるのですけれども石狩市内で採れたものを石狩市民に食べていただきたいって言うのが元々のベースになっているものですから、これからはそういう形で発展していくという方向があると思います。

【瀬尾委員】

ビジネスじゃなくそれ以前の問題ですね。

【後藤副会長】

石狩の元々の人間は、当たり前過ぎてありがたみが少ないわけですよ。ただ、外から石狩を見ると逆になかなか今まで地産地消の恩恵にあずかれなかった部分もあると思います。それを今回あのような形でやられたというのは、私は非常にいいと思います。だから、もっともっと地域内共同購入みたいな形を作れるのであれば、もっとやっていいと思うのです。ただ、本当に残念なのが、なかなか周知されていないということが一つのネックになっています。希望者は、それだけにかなりいますよね。

【松尾委員】

市内の飲食店では、まるしえ便で結構買われているのでしょうか。

【大江委員】

飲食店は、何店舗か押さえておりませんが、かなりございます。

【後藤副会長】

くまさんは、結構飲食店行っているよね。

【大江委員】

そうだと思います。以前は、くまさんがとれのさとの前の直売所に来て売っていたのです。

【瀬尾委員】

どうして辞めたのでしょうか。

【事務局（佐々木部長）】

私が聞いているのは、札幌市のほうに販路を広げて、それで石狩市内で回れなくなったのだという話は聞きました。その影響で、直売所のところから撤退したのかどうかかわからないですけども。

【北山会長】

さきほどの高齢化の話で見て買いたいというのは、そうだと思うのですが、逆に高齢化になるとなかなか外行って買い物をできない方がいますよね。高齢者は、冬場だと買い物をすることが大変だから買い物を代行するような事業も何か隙間としてあるかもしれないですね。

【後藤副会長】

派手に宣伝をしておりますけど、実はダイコク交通は、4年位前に許可を取っています。買い物代行や買い物だけに限らず例えば病院へ行って薬を受け取ってくるとかだったらいいのですよ。本来、それは一般貨物に引っかけちゃうので非常に神経使うところなのです。だから、それはきちんと申請して持っています。ただ、なかなかそんなに利用されていないです。

【北山会長】

知られていないのでしょうか。

【後藤副会長】

あまり知られていないですね。また、まともなタクシー代を払ってまでというのも出てくると思うのですよ。

【北山会長】

地方の本州辺りで病院に行くのになかなか行けないので、バスの料金で差額は行政が助成すると

かフォローしているところもありますね。

【後藤副会長】

石狩市も地方へ行くと色々ありまして、それはまた別の分野の話なのですが。

【北山会長】

高齢化が進行してくると、そういった事業も積極的にやっていく必要がありますよね。

それでは、次に石狩ブランドの確立で、評価は△が多いのですが、積極的に進めて欲しいというのが4で多いですね。これは、ブランドをつくる個々の企業に対する支援ということでしょうか。各団体に対する支援ではなくて、各企業その地場企業に対する支援ですよ。

【事務局（佐々木部長）】

想定していたことは、そうだったのですが実際の動きとしては、商工会議所が石狩産の物の統一ロゴを作ったというようなことになりました。

【後藤副会長】

まだ認知度は無いよね。

【松尾委員】

まだロゴマークができただけで、どこにも使ってもらっていないので。

【事務局（武田課長）】

今動きとしては、農政関係で小麦の普及を進めていく団体が今日立ち上がったのですよね。

【大江委員】

石狩産小麦普及推進協議会ですか。

【事務局（武田課長）】

そちらで商品化したものは、積極的に活用していこうというような話が今出ております。札幌市の企業も入って、今まで実践で関わってきた人が加わっているものですから、色々な新商品が出てきそうな感じがあります。

【松尾委員】

実は昨日、このロゴマークをどのように活用しようかという会議があったんですけど、そちらのほうでも議論しておりまして、これからいろんな企業・団体さんなどに使っていただくこと。その上で、どのような線で広くたくさん使って貰った方がいいのかある程度絞り込んだ方がいいのかなどそういう議論も含めて、今やっている最中ですね。

【北山会長】

認証である程度商品を絞り込んで、この商品なら石狩市を代表する商品でいいでしょうという認証の仕方もあるでしょうし、広く地場のものであれば全部ロゴマークを使って貰うという方法もあるでしょう。

【松尾委員】

昨日お話が出ていたのが、例えば首都圏などの方へ行くと、北海道産・石狩産というだけでもみんな美味しそうだねというようなイメージがあるので、絞らなくてもいいんじゃないかという意見もありますし、ブランド価値高めるためにある程度基準を絞った方がいいのではないかという意見もあって、まだ調整中です。

【後藤副会長】

まだ決まってないのでしょうか。

【松尾委員】

今まさに、そのロゴマークを使っていただくガイドラインを作っている最中です。ロゴマークだけ出来ているという感じです。

【後藤副会長】

例えば、石狩産の小麦と言えば、何割まで使えば石狩産ですよっていう基準を作っているのでしょうか。

【松尾委員】

そうですね。その割合を設けたほうがいいのか、設けなくていいのかということも含めて話し合っております。

【後藤副会長】

設けたほうがいいよね。

【松尾委員】

まあ議論百出でした。

【後藤副会長】

100%なんかあり得ないだろうし。でも1%でも5%でもロゴマーク与えちゃうのですかということになりますよね。

【松尾委員】

例えば、小麦だけの話をして%を決めるのならある程度簡単なのですが、色んな物に対して、そういうことを考えていけないといけないので。じゃあどこで線を引こうと。今のところは、例えば、食に関する分野のものだけということになっておりますけれども、例えば札商で行っているような北のブランドとかであれば、工業製品だとかも含めて行っているのです、そういうこともカバーしてやっていかななくてもいいのかという意見もあります。色々な論点が出てきております。これから整理していきます。

【北山会長】

ブランドは、難しいですよ。企業が決めると、やはり消費者が、これが石狩のブランドだと認めたものでないと。そこまでいくのにどういうその支援の仕方があるかなと思うのです。なんでもかんでも認めちゃうと、逆に海外から輸入した食材を使って作ったものとかもね。

【松尾委員】

余談が増えてしまうのですが、私もあまり詳しくないのですが、富良野というロゴがありますよね。富良野へ行くとたくさん見かけるのですよ。割と結構自由に使って貰っていると話で聞いたことありまして。ああいうふうに、広く認知して貰うという方法もあるのかなと。そして、ジャンルを絞り込めるのであれば、ある程度高いハードルでやるという方法もあるのかな。なんとなくの感想というか感触というか考えております。

【後藤副会長】

佐々木部長。東京都などへ行って、石狩って言うと石狩市だとみなさん思いますかね。

【事務局（佐々木部長）】

石狩という名前は、すごく知名度あるのですけれども、石狩市は非常に知られていない。

【後藤副会長】

そうですね。それは間違いないですね。

【事務局（武田課長）】

極端に言いますと、石狩市というのがあったのですねという感じです。

【後藤副会長】

石狩と言うのは、みんな知っている。では、石狩というのはなんなのと言え、北海道のこの辺が石狩ですみたいな。石狩市って言うと、課長がおっしゃったように石狩市ってあるのですかという感じですね。

【松尾委員】

そうですね。私も東京に行って、地場産品のものを売るようなマーケットに行ったことがあるのですけれども、他のこれぐらいの規模の街で名前言って分かって貰えるだけでもすごくありがたい。

石狩というのが、石狩市が有名では無くても石狩というのが有名だから、それは恵まれているんじゃないかな。それには少しおんぶしてもいいのかなと思います。

【後藤副会長】

そのブランドの話で、石狩という名前をもっともっと広めたいのか、石狩市を認知して欲しいのかそれで使い方が変わりますよね。

【有田委員】

多分北海道のどこかだという。

【後藤副会長】

それは分かっているのだろうね。

【有田委員】

だから、北海道から来たものだから大丈夫だろうみたいな気がしますけどね。

【後藤副会長】

石狩ブランドということで、ロゴマークを作った。じゃあ、石狩ブランドを何のために売り出そうとしているのかそこだと思うのですよ。もちろん議論を尽くして出来ていると思うのですが。

【松尾委員】

まだ議論の途中ですね。

【北山会長】

団体商標を取っている商品は、石狩にまだ無いよね。

【事務局（佐々木部長）】

地域団体商標無いですね。

【大江委員】

団体商標登録というのは、これはどういったものでしょうか。具体的に教えてください。

【北山会長】

十勝の長いもとか。

【事務局（武田課長）】

地域と商品名。

【大江委員】

それでは、石狩長いもでもいいのでしょうか。

【事務局（佐々木部長）】

相当程度知られている必要があります。

【瀬尾委員】

中国では、すぐブランド登録しちゃいますよね。

【北山会長】

石狩市は何ができるかな。石狩鍋とかでしょうか。

【事務局（武田課長）】

石狩鍋は、枠を超えているものですから。どこでもやっているの、それはちょっと駄目と言われております。

【松尾委員】

困りますよね。考えないと。

【北山会長】

これについては、積極的に今後も進めていくということによろしいですね。

次に、アンテナショップ・見本市などへの出展支援。これも事例として色々やっておりますね。

今回の北京商談会や大通りのオータムフェスタなど。これも積極的に進めて欲しいということですよ。これはどのような支援をされているのですか。一部助成などですか。

【事務局（武田課長）】

ビジネス E X P O やおおた工業フェアへの出展支援というのは、市で場所を確保して、出店する方たちが自分たちの物を持ってきて PR、商談などしております。その他に札幌近郊では、市町村枠の PR ブースを無料で貰えたりします。

【北山会長】

世田谷の楽市楽座って石狩も何かやっているのですか。

【事務局（武田課長）】

世田谷駅前商店街で、商店街の振興対策で行われている事業で毎年秋に開催しているイベントです。東京に石狩を売りに行こうということで、ご縁があってイベントに参加させてもらっています。

【有田委員】

今年で 3 年目ですか

【事務局（武田課長）】

3 年目ですね。地元にだんだん根付いてきてですね。本物の石狩鍋を实际食べたこと無いって気付いていただいた。今まで違うものを食べていたと分かっていただいております。

【有田委員】

近所の方が鍋持って買いに来るのですよね。

【事務局（武田課長）】

この辺で石狩鍋売っても鍋を持ってくる人は、誰もいないですよ。鍋を持ってくる人とか持ち帰

りしたい人もすごく多いのです。家族に食べさせたいということで。

【有田委員】

イモとか持っていったら、100円で基本売っているのに箱ごと頂戴とかいうような売れ方するって聞いたことがあります。来場者どのくらいいるのでしょうかね。

【事務局（武田課長）】

結構いますね。2日開催で。さけまつりのほうが多いと思いますよ。それでもそこその人数は、ずっと動いておりますけど。

【北山会長】

分かりました。それと自由意見の中にアンテナショップを開設して欲しいとありますね。地場市場は、使用条件とか規制があるから、あの辺にアンテナショップがあれば結構相乗効果が出てくると思うんですけど。土地は、全部農協ですか。

【大江委員】

アンテナショップという感じでは無いですね。

【北山会長】

地物市場ですけど、地場の特産品で加工品を消費者に見せたりとかはどうでしょうかね。

【事務局（武田課長）】

石狩市としては、とれのさとはアンテナショップ的な位置になっていると考えております。要するに、商売やられていた方の商品を扱っているばかりではなく、農家さん達がジャムを作り売りだしておりますよね。試験的な場でも当然あるだろうし、売ること自体で刺激を受けて新商品開発とか積極的に高品質のものを売っていくようなきっかけの場になっているだろうと思っております。

【大江委員】

もう10年もやってきたので、そろそろアンテナショップを出したいなという感じだったのです。

【事務局（武田課長）】

そこからブランド品が出ていくというような、ステップアップの場所だと思っております。

【北山会長】

すごくいい場所なんでね。だから、規制されているのであれば別ですけど、もっと拡大して石狩全体としてのブランドが揃ってきているなど。食べるものもすぐ持ち帰ってもいいですけども、すぐその場で食べられる物を出せると滞留時間も長くなるし、お金も落ちるし色々経済効果があると思います。

【大江委員】

とれのさとに加工体験施設を併設しておりますで、そこで新しく加工されたものとかアンテナショップ的な部分を兼ね備えているといえ、加工体験施設に持って行ってそこで作ったものを消費者に食べていただけるというような特徴ですね。

【北山会長】

料理教室みたいなこともしているのでしょうか。

【大江委員】

料理教室も行っております。

【北山会長】

例えば、たまに有名なシェフを連れてきてもいいですよ。そうやって広げていけば、もっと石狩ブランドが認知されてくる機会になっていくと思うのです。これも積極的に推進ですね。

それでは、最後に周辺自治体との連携。評価は、いいけど積極的に掲載が半分ずつですね。バスツアーというのは、札幌と石狩のバスツアーですか。

【事務局（武田課長）】

これは札幌ばかりでは無いですが、千歳とか定山溪とか当別回りとか広域で行っております。

【北山会長】

これは毎日でしょうか。

【事務局（武田課長）】

毎日ではないです。単発的です。今の時期だと鮭漁見学。支笏湖の温泉客が見に来たりしております。出港日が決まっているものですから常時にはなっておりませんが季節ものとして人気があります。

【後藤副会長】

どこで商品化しているのですかね。

【事務局（武田課長）】

観光協会でコーディネートしております。実際、旅行業の許可を持っていないと企画できないものですからコーディネートですね。

【北山会長】

小樽と海で繋がっているのですが、小樽との商業ベースの連携というのはありますか。

【事務局（武田課長）】

小樽と石狩を巡るツアーというのもありますし、函館から入ってきて小樽・石狩といったツアーもあります。それは、車を借りてドライブするツアーのメニューの中に入っているのですが。あと、さっぽろ雪まつり会場、小樽観光、その後石狩鍋を食べて帰るといったバスツアーもありました。

【後藤副会長】

それは、観光協会が企画したのですか。

【事務局（武田課長）】

それは、旅行会社ですね。時期ものが多いですね。

【松尾委員】

そういうのは、これやったことによってどのくらい来たのかというのは分からないですよ。

【事務局（武田課長）】

個人旅行は、分かりづらいですね。

【松尾委員】

把握しようが無いですよ。

【後藤副会長】

協会で組んだバスツアーであれば、何本やって何人乗ったというのは分かるのかもしれませんが。

【有田委員】

今、クルージングと自分たちは言っているのですけれども、それは個人対象のバスツアーではないのですが。去年、大阪、名古屋、仙台に商談会に行ってきたときには、結構申込がありました。

【後藤副会長】

それは、エージェントの相談でしょうか。

【有田委員】

そうですね。関西だったら関西の旅行代理店に対する商談会みたいな感じで。それで、大阪の高校が修学旅行みたいな形まで来たのですが、寸前のところでアクシデントがあって中止になった経緯もあります。そういうのには、結構積極的に動き出してはいましたね。

【後藤副会長】

協会としては、その辺は積極的にやっているし、これからもやるつもりでしょうね。

【有田委員】

そうですね。やろうと思っております。

【事務局（武田課長）】

石狩市で選べるネタというか興味持ってもらえるのは限られているので、他の町のいいものところのいいものをくっつけてぐるっと回ろうという考えで、広域で連携というのが始まっているのですよね。これから、少しこういうような企画物が増えてきたり実際運行したりとかそういう傾向にあります。

【北山会長】

そうだね。目玉になるなんか見せる観光施設がね。

【有田委員】

例えば、本町地区で一日はもちろん無理だし、半日居ていただくのも厳しいですね。ちょっとやったら、次の街なり次の地域へ組んで行かないとちょっと難しいですね。

【北山会長】

そして最後に地場市場に寄る。

【後藤副会長】

そういう仕掛けを積極的にやってくれば面白いよね。それこそ連携だよ。

【北山会長】

この辺も積極的に今後やっていくということでよろしいでしょうか。

最後に札幌市への働きかけ。これも積極的に掲載が多いですよ。評価はあまり良くないですが。

【松尾委員】

これは、どういう連携をするという話でしょうか。

【事務局（武田課長）】

これは、札幌市の産業振興センターで色々なことをやっておりますので、そこでやっているメニューを活用してもらったり、また札幌市と石狩市で包括連携協定があって、お互いに企業支援しましょうという大きな枠の中での話なのですが、石狩の場合隣接する札幌市の色々なものを活用できますので、そういう視点での記載内容です。

【松尾委員】

企業誘致ということではないのですね。企業誘致等連携協定と書いておりますので。

【事務局（佐々木部長）】

柱としては、企業誘致と人材育成です。この協定の柱は。

【松尾委員】

それでは、こちらに書いてあるのは人材育成ですね。札幌と一緒に企業誘致をすることによって、生きてくれている、そういう話があるのかなと。

【後藤副会長】

動きは、連携してやっている部分はありますよね。

【事務局（佐々木部長）】

両市長でNECや富士通に行ってデータセンターのセールスしておりますね。

【北山会長】

新港地域に進出している企業で港湾との関わりがある企業ってあるのですか。

【事務局（佐々木部長）】

ありますね。

【北山会長】

結構多いのですか。

【事務局（佐々木部長）】

北ガスとか典型ですよ。今作っておりますけど。

【事務局（佐々木部長）】

やはり、今物流というのがコンテナですとかローロー船というのが主流なのですけれど、それが新港には就航しておりませんので、バラの一船仕立てとかが多いのですけどね。ですから、今新港関係で間違いなく使っていると言えば、水産加工関係とかの冷蔵庫会社とかですね。

【事務局（武田課長）】

コンテナ船は入りますけど、数が少ないという意味です。

【事務局（佐々木部長）】

あとは、自転車の丸石とか。

【後藤副会長】

丸石は、社名変わっておりますよね。

【事務局（佐々木部長）】

外国から持ってくるコンテナで自転車のパーツを持ってきて、新港の自転車工場で組み立てとかやっておりましたよね。

【北山会長】

今後とも進めていくという事ですね。では、次回は、4. 活力ある地域産業の展開から審議していきましょう。

【事務局（武田課長）】

次回以降の予定なのですが、当初5回を予定しており、次は4回目ということでこれまでの審議の意見を踏まえ、現状での答申案を一回作ってみなさんに見ていただかないといけないということ

で、少しお時間を頂きたいので 11 月の最後の週に 4 回目を開催する形でもよろしいでしょうか。

【瀬尾委員】

11 月の下旬は、21 日と 22 日しか空いていないですね。

【北山会長】

それでは、21 日以降ですね。ですから 21 日から 30 日の間で調整願います。

【後藤副会長】

10 月の後半くらいに 11 月の日程調整の連絡をよろしくお願いします。

【北山会長】

みなさま、お疲れ様でした。

平成 23 年 10 月 28 日 議事録確定

石狩市地場企業等活性化審議会

会 長 北 山 雀